

Replaying Japan Journal Vol. 5 発刊に寄せて

稲葉 光行

Mitsuyuki Inaba

Ritsumeikan University, inabam@sps.ritsumei.ac.jp

Replaying Japan Journal は、立命館ゲーム研究センター (RCGS) が発行している、日本のビデオゲームとゲームメディアに焦点を当てた世界で唯一の査読付き国際学術誌である。本誌が生まれるきっかけは、2012年にカナダ・アルバータ大学で開催された、日本のゲームに関する小さなシンポジウムである。そこで生まれたゲーム研究者の集まりは、その後毎年開催される国際学術会議へと発展し、現在は、日本とカナダのほか、ドイツ、アメリカ、イギリス、ベルギーなど世界各地で開催されている。このようなゲーム研究コミュニティへの広がりを受けて、2018年には、招待論文を中心とした準備号が発行され、2019年には世界中の研究者からの投稿論文を掲載した正式な創刊号が刊行された。

この創刊号の巻頭言は、ファミコンの生みの親であり、RCGSの初代センター長である上村雅之先生が執筆された。上村先生の巻頭言は、国内外の研究者がゲームに興味を持つことの重要性や、ゲーム研究が国際的に広がっていくことへの期待について述べている。このような上村先生のビジョンを受け継ぐ本誌は、世界中のゲーム研究者が最新の成果や知見を発信する重要な媒体となっている。

その上村先生が2021年に逝去された。ゲーム研究の生みの親であり先覚者である上村先生を失ったことは、RCGSの構成員として、またゲーム研究コミュニティの一員として痛恨のきわみである。そしてRCGSには、上村先生に対して世界中から膨大な数の感謝の言葉が寄せられている。その中で、本誌編集委員会でも上村先生の功績を称える記念特集について議論が行われ、今回、世界中から投稿された質の高い論文とともに、上村先生の歩みを振り返る企画として、細井浩一先生を編集責任者とした「上村雅之と遊び」という小特集が設けられた。

もちろん上村先生の業績はあまりにも偉大で、小特集だけでとてもカバーできるものではないが、少なくとも今回のVol. 5が、上村先生が創り出したゲーム文化とゲーム研究の文化について改めて振り返るきっかけとなれば幸いである。また本誌が、上村先生が思い描いていたように、遊びやゲームを研究する世界的なコミュニティのさらなる発展に貢献することでできれば、編集長としてそれに勝る喜びはない。

最後に、これまでと同様、共同編集委員長として国際展開にご尽力をいただいたロックウェル教授、そして発刊にむけて多大な貢献をいただいた国内外の編集委員と査読者の方々に深く御礼を申し上げたい。

2023年3月